

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892100033		
法人名	株式会社 ラ・ストリア		
事業所名	グループホーム あゆみ荘		
所在地	茨城県ひたちなか市津田3723-2		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町村受理日	平成31年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症であっても、その人らしい生活が安心して送れるようにご利用者をよく理解し、『第二の我が家』を目指した安全な環境作りと、ご利用者に寄り添った支援・介護に努めています。食事は職員が調理し、食べやすさと季節感のあるメニューを意識しています。不定期ではありますが、年6回程度、ご利用者の希望の場所や食事を楽しめるドライブを計画し、その他にも施設内での敬老会や納涼祭など季節行事も行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosyoCd=0892100033-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成29年11月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

水戸市とひたちなか市を結ぶ主要道路近くに立つ施設である。鉄筋コンクリート造りの三階建てで3ユニット。敷地内にはクリニックや介護施設が併設されている。開設時からの職員がいることで馴染みの関係ができており、落ち着いた雰囲気を感じられる。各階には行事写真や飾り物、観葉植物が置かれている。また、献立は管理者が2週間分を作り、毎日買い物に行っている。その為、生ものなど希望に沿ったものも提供できている。利用者はイベント食や手作り弁当、誕生日ケーキのデコレーションなどを手伝い、食事への楽しみに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本理念をもとに、地域密着型サービスの意義をふまえたサービスが提供できるよう、出来る事から取り組んでいます。	開設当時の理念をもとに、利用者一人一人のペースに合わせて支援している。また、外出や行事の際には家族の協力を得ている。職員の離職により、派遣スタッフを含めた理念の共有に取り組んでいる。	開設14年目を迎え、地域密着という考え方や職員の離職の件を踏まえ、理念をもとに達成目標を設定するなど、理念の共有と実践に繋げて頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣には民家がない為、地域の方々とは交流しづらいが、地域の夏祭りなどの地域行事への参加や、施設内での行事には、定期的に市内のボランティアの方々に参加いただいております。	地域のお祭りや敬老会、七夕、クリスマス会に出掛けしている。外出時や行事に合わせてボランティアが介入している。小学生の職場見学受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させていただいたり、近くのレストランに行ったりと認知症の方々でも普通に過ごせることをわかってもらえるように積極的に外出しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加される方々に施設での取り組みを説明し、実際に見学していただいています。また、アドバイスをいただいた時は、出来る事から行っています。	奇数月の第4火曜日に開催している。地域包括支援センター職員、認知症地域支援推進委員、自治会長、利用者、利用者家族が参加している。また、キーパーソン以外の家族の面会時に推進会議の参加について声掛けを行い参加することもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例や疑問がある時は市の担当者へ相談をするようにしています。	担当職員が定期的に生活保護受給の利用者に面会に来ている。連絡協議会はないが、年1～2回行われる集団指導に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設周辺に用水路があり、玄関は常時開放しておけない為、ご利用者が外出希望時は出来る限り対応しています。また、不定期ですが、日中ご利用者の状態に合わせて、扉を開放する時間を設けることもあります。	マニュアルをもとに定期的に勉強会を行っている。現在、家族からの要望はないが、要望がある場合は、治療上問題がないか医師の指示を確認している。車いすの点検は環境委員が定期的に行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、参加者が全体会議で勉強会を行い全スタッフが学べるようにしています。ボディチェック表を作成し、ご利用者の変化に気付けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村や外部より研修案内が来た時には積極的に参加するようにしております。研修後には全体会議で全スタッフに報告し、内容を共有できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行っております。また、改定があった時は書面で変更点の説明し、同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に職員に伝えやすい関係づくりを心掛けています。運営推進会議に参加していただいたご家族、ご利用者には必ず意見をうかがい、対応できるよう努めています。	利用者からは、日々の生活の中で外出や食事について聞いている。家族からは、面会時に意見を聞いている。また、介護計画は3か月が随時立案し計画の同意は高齢の家族には郵送などをお願いし、面会に来られる家族には面会時に説明している。毎日面会に来る息子さんからの要望もキーパーソンに確認しながら反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員がいつでも意見を言えるような関係作りを心がけています。不定期ですが、職員の自己評価や設置した委員会のアンケートにて、要望や意見を反映できるようにしています。	月1回、各ユニット毎にモニタリングを行っている。第3水曜日に職員会議を行い、参加できないスタッフは議事録にサインを行い共有している。サービス、感染、環境委員会からの報告やインフルエンザ、ノロウイルスなど、取り扱いや感染予防について勉強会を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	不定期ですが、職員個々に介護チェック表や評価票を施行し、その後面談を行い、また、個々の抱える問題には、出来る限りの相談と対応を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部より研修案内が来た際は回覧でスタッフに知らせ参加できるようにしています。また、全体会議で各係が主になり勉強会を開き知識の共有ができるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センターの協力により一部のグループホームと交流し、情報交換が出来たり、協力施設や医療機関の勉強会やイベントなどに参加し、新しい取り組みへとつなげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が意見を言える場合にはご本人より要望を聞いていますが、意見の言えない方はご家族に意見を聞いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談に来荘された時に不安なことを聞きアドバイスなどを行っています。又自宅や病院、施設へ訪問させていただき関係づくりを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の環境や状況を考え、デイサービスやショートステイ、他の種類の施設等の説明を行い、選択していただくよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護させていただいていると思う気持ちを持ち、ご利用者より学ばせてもらう機会をつくるよう助言しています。ご利用者にも出来ることをしていただき、共同生活の一員として、何らかの役割をお願いすることもあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来荘しやすいフロア作りをしております。また、ご家族の方々には、出来る範囲でのご協力とご支援をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人とご家族の希望を優先しますが、基本的にはどなたでも面会でき馴染みの人などの交流も可能です。また、ご利用者状態に合わせて希望の場所に行くお手伝いをしています。	近所の方が定期的に面会に来ている。また、デイサービスに来ている方から、麻雀の誘いがある。親戚が集まる時に外泊している利用者がある。孫の結婚式に参加したり馴染みの美容室の利用、好物のウナギを食べるなど、馴染みの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	和室、食堂での席の配置を考えてご利用者同士が支えあえるようにしております。場合によっては、ご利用者同士の良い関係が保てるよう、職員が間に入ることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族へ退所後も来荘、電話などで相談に応じることが出来ることをお伝えしています。また、必要に応じて、退所後もご本人やご家族の状態を電話や訪問で確認することもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者毎に担当者を配置しご本人の希望、意向の把握に努めています。また、意思伝達の困難なご利用者もいますので、ご家族との話し合いにより本人本位の検討を心がけています。	各ユニット毎に思いを把握している。すき焼きや誕生日ケーキをホールで出すなど、思いの意向を把握し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅などに訪問し生活歴などをご本人、ご家族より伺い把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限りご本人の意向を考慮し、現状把握に努めています。また、意思伝達の困難なご利用者には、職員が現状を把握し、その日の心身状態に合わせた対応をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のケアカンファレンスを開き職員全員で話し合い、ご利用者がより良い生活を送れるよう介護計画を作成しています。介護記録については、現状を維持しながら、より良い情報の共有方法について検討していきます。	ユニット毎に毎月モニタリングを行っている。介護計画は、3か月または状態の変化があった場合に随時立案している。介護計画の同意は通常面会時に頂くが、高齢のご家族などは郵送で行っている。日々の記録について、プランに沿って簡素化することを検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡帳、気づきノートなどに記入し情報を共有しケアカンファレンスにて話し合いをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設で対応不可能な場合などは連携施設や市町村に相談協力を依頼して対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内にボランティアに来ていただいたり、可能な限り地域の行事には参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度の定期受診をしています。体調不良時にはすぐに主治医や協力医療機関の看護師へ連絡をとり受診するようにしています。状態の変化が著しい場合には、ご家族に同行していただくこともあります。	かかりつけ医に定期受診している。受診は、家族に依頼しているが、依頼があれば職員が付き添っている。夜間や突発時は、協力施設の看護師に指示を受けている。受診記録と介護記録に記入し、家族への連絡、薬の変更などは申し送りノートで共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力施設や協力医療機関の看護師等に相談しアドバイスをいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院へ面会へ行き看護師、ソーシャルワーカーより情報収集しています。ご家族へも電話連絡し退院後の話し合いをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示により、一部のご家族にご説明しています。施設で出来ることは限られている為、ご利用者へ最良の支援ができるように早い段階でご家族と話し合いがもてるようにしていきたいと考えています。	利用者一人一人の病状に合わせて随時医師より説明し、家族の協力を得ている。ホームでできることの限界までは支援し、ホームで過ぎて頂く。緊急時は救急搬送するという了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしています。全体会議時に方法の再確認を行い、全職員が同じ対応方法できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する施設との合同訓練と、年2回の当施設単独での訓練を行っています。現在は、防災設備業者の協力のもと、各フロアでの訓練を行っています。	日中夜間想定にて3月と9月に行い、関連施設合同では6月に行っている。水害、震災時の訓練は、施設合同にて行っている。	災害時の訓練を定期的に行っている。訓練時、各災害に対するシミュレーションを行い確認をしていく。また、自動ロックの災害時の解除タイミングなどを具体的に確認して頂く。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にご利用者1人ひとりに合った声かけを意識し、人格を尊重したケアを心がけています。	利用者一人一人に合わせた声掛け支援を行っている。重要事項説明書に於いて、苦情解決責任者の明記について検討していく。また、個人情報について、項目毎に具体的な同意を得ることを検討していく。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の姿勢を大切にし、分かりやすい言葉で声かけするよう努めています。日常生活以外でも外出やフリーランチなどで、ご本人の希望が聞けるような機会を設けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご利用者のペースを大切にしながら生活が送れるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の時はお化粧などをしておしゃれをしていただいています。ご利用者自身に、季節に合った服装を選択していただく、髪型の希望を聞いて支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と共に食事作りができるメニューを取入れ、片付けなどは可能なご利用者をお願いしています。現在食事介助が必要なご利用者の安全性も考え、全員一緒に食事は難しいが、職員の食事時間はご利用者の情報交換や状態把握の共有に役立てています。	献立は管理者が作成しているが、利用者の要望に合わせて追加変更している。誕生日にはユニット毎にホールケーキやロールケーキにデコレーションするなどの工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲のない時にはご利用者の好きな物を召しあがっていただいたり、栄養ゼリーなどを摂取していただいています。また、一日の水分量は合計し、数字で把握するように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを施行しています。磨き残しのある方は介助対応しています。夕食後は義歯の消毒をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行いオムツに頼らない生活支援をしています。 個人の排泄パターンは排泄チェック表を活用し把握するようにしています。	日中はオムツ使用の利用者についてもトイレ誘導を行い、排泄の自立支援を行っている。また、放尿する方については排泄パターンを把握し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物や乳製品などを召しあがっていただいたり、適度な運動をしていただいています。状況に応じて、医療機関の協力をお願いしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね1日おきに入浴していただいています。職員配置の都合で時間帯が決まっていますが、個々の身体状態を観察し、ゆっくり入浴していただけるよう時間を取っています。	週2から3回の入浴支援を行っている。行事により入浴できない場合には、家族からの要望もあり入浴日を適宜工夫して支援している。感染症についても留意して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのご利用者に応じた日中の過ごし方を考え、夜間帯はゆっくり休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容がすぐみられるように保管し、ご利用者が確実に服用できているか見守り確認しています。また、薬に関する研修に参加し知識を深めるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることが少しでもあれば職員と一緒に行っていただいています。完成時に喜びの表情が見られるような作品作りなどに取り組んでいただいたり、毎日が楽しく過ごせるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期には施設周辺の散歩に行っています。現在、一部のご利用者の外出希望にしか対応できない状況です。外出が難しいご利用者にも、ご家族の協力での外出や、職員と共に外出する機会を増やせるよう計画しています。	四季折々の時期に合わせ、月に1回、外出支援をしている。ユニット毎に外出したり、納涼祭では家族と共に過ごす時間を作っている。また、外出時に外食支援を行い楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は個人預り金として職員が管理しています。ご自身でお金を払うなどの支援は困難な状況です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期連絡として、年賀状を送っています。ご家族のご意見なども踏まえ、電話の希望にも対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり和室にはコタツなどを置き家庭的な空間を作っています。室内は適当な温度や湿度を保つようになっています。	ユニット毎に観葉植物や季節の飾り、行事写真などが飾られている。リビング横の畳部屋には、大きなガラスから日差しが入り、明るい共有空間作りがされている。乾燥する時期には加湿器を置き注意をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、食堂にて気の合うご利用者と会話を楽しまれています。イスやテーブルの配置などを工夫し、快適に過ごせるよう心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご家族へ説明し、自宅で使用していたものを持ってきていただき、居心地のよい居室作りをしています。	各居室には洗面台があり、その横には家具が置かれるなどの工夫がされている。また、馴染みの家具や椅子、テレビが置かれている。家族の写真や飾り、仏壇なども置かれ、居心地の良い空間づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を極力なくし、廊下、浴室、トイレ等には手すりを取りつけています。居室はご利用者に合わせた寝具や家具などの配置にしています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム あゆみ荘

目標達成計画

作成日: 平成30年12月29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練は定期的を実施しているが、各災害に対するシュミレーションの確認が行われていない。火災発生時に施設内の自動ロックが解除されることになっているが、その解除条件を詳細に把握していない。	各災害時の避難シュミレーションを再作成し、定期的に確認を行なう。火災発生時の自動ロックの解除条件は、全職員がその内容を把握する。	各災害時の避難シュミレーションを再作成し、避難訓練時にその確認を行なう。火災発生時の自動ロックの解除条件は、防災機器の管理会社に既に確認済みであるが、その内容を全職員が把握できるよう、非難訓練時に毎回確認を行なう。	24ヶ月
2	1	理念の共有はできているが、全職員に浸透し実践できる理念であるのか、職員と定期的に話し合いや確認を行えていない。	全職員と派遣スタッフにも浸透し実践しやすい理念を再設定する。	理念を更新すべきか、現状維持か、新たに目標を追加するか等、職員の意見は既に聴取しており、その結果を考慮し全職員と派遣スタッフにも浸透し実践しやすい理念の決定を目指す。また、決定後も定期的に会議等で理念について話し合いや確認を行なう。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。